

これが小澤征爾だ～「地球映像遺産」が語る音楽の神髄～

TBS ヴィンテージクラシックス 小島英人

小澤征爾、「世界の OZAWA」。小澤は「世界のタカラモノ」である。リズムに乗り、シャドーボクサーのようにジャブをうち、音楽に灼熱に没入する。OZAWA の流儀。劇的に、色彩豊かに、華やかに。小澤征爾とは邪気無き子どもの情熱のひと。そして、胸には天高い理想。彼のタクトに世界は魅了されつづけている。

小澤が、音楽のアポロンとして、世界に冠たる地位を占めたのは彼が「死に物狂い（小澤征爾、大江健三郎との対談で）」で、音楽に生き続けた半生のご褒美であった。

小澤の半生。彼は、9月1日、88歳の米寿をむかえる。「米」は88回の手間暇によって実る。小澤征爾という米は何によって実ったのか。TBS は早くから小澤征爾に注目し、記録しつづけてきた。61年間、300件の関連映像がある。最古の映像は1962年に2件。

一つは「人間、小澤征爾」の苦悶と哀しみであり、もう一つは小澤征爾の人生の幸福である

「小澤征爾の音楽」はどうか。特別な映像記録が2本ある。小澤征爾が「生ける世界遺産」であるなら、それは忘れられた映像の「古代音楽遺産」である。貴重な遺跡なら、それは発見され、調査され、解明されるべきである。そして、世界に知らしむべき重要公共財である。

誰が解明するべきか。この音楽遺跡は世間から忘れられただけではない。小澤征爾本人もその後、見る機会がなかったであろう。世界のマエストロにその映像を献呈し、小澤征爾の「音楽の神髄」を語ってもらうことができれば、ベートーヴェンが残した第九の楽譜のように、世界への、未来への巨いなるギフトとなるであろう。

構成案：交響曲「小澤征爾」

♪第一楽章 運命の予感～妻となる乙女、内職の母～



お目目のぱっちりした手足の長い美少女。
中原淳一の少女イラストだ。
戦後日本を風靡した。
焼けあとから歩み出した人びとのあこがれが結晶していた。
銀幕にはオードリー・ヘップバーン。
少女雑誌「それいゆ」ではヘップバーンのような日本の女の子が花束をもっている。
日本人のヘップバーン?!
それはファンタジーであった。
現実にはありえない夢だった・・・。
普通の日本人の姿はどうだったろう。

1949 年、銀座通り。紳士服の〈モトキ〉(今もある)。
ひとりの女性が頭をさげている。手作りのネクタイを行商している。小澤さくら、41 歳。
長男に続き、次男も大学に進学。三男が私立の成城学園に入学し、四男を抱えている。夫は満州国の夢破れ、呆然自失である。四人子どもの母は、肥をかつぎ、野良仕事をし、内職をし、必死でお金を工面していた。三男征爾の学費を何回滞納しただろう。さくらは手先が器用であった。九重に織り上げた明るい柄のネクタイは飛ぶように売れた。
復興のつちおととともに日本人はファッションにも目覚めはじめていた。

1962 年、高度成長に差し掛かった日本。夢はたんなる妄想ではなくなる。
イラストの女の子が雑誌から飛び出してくる。銀座のファッションショー。TBS が記録した映像。そこに、お目目のぱっちりした手足の長い美少女がすらりと立っている。ランウェイを歩く直前にデザイナーが最後のチェック。デザイナーは森英恵、36 歳。世界に飛び出すのは数年後だ。美少女は誰だろう。入江美樹 (17) の名でデビューしたファッションモデルだ。後に小澤征爾と結婚することになる (1968 年)。TBS は小澤征爾関連の映像を 300 件、保有するが、最古の映像は実にこのファッションショーのひとこまであった。「小澤征爾の妻となる女性」のタグでアーカイブされている。余談だが、森英恵は後に小澤征爾のファッションを手掛けることになる。世界の OZAWA のトレードマークとなる白く輝くタートルネックは森英恵のデザインである。(堅苦しい燕尾服をタートルに変えたのは小澤征爾だ。「革命」のひとつだった。英国クラシック FM は小澤の功績の筆頭にそれを挙げた。) こんなインタビューが残っている。入江美樹との結婚、2 年前である。

(アナウンサー) 足の綺麗な女性と心の綺麗な女性とどちらを欲しい (小澤征爾) 心の綺麗な・・・いや、両方とも欲しますね。	
--	--

♪第二楽章 ステージを濡らす涙～青年小澤征爾、絶体絶命～



美しいファッションモデル、入江美樹(17)は人気ものとなり、映画にも引っ張りだされるようになる。同じ年、**小澤征爾は人生最初で最大の試練**に立たされた。TBS が保有する 300 件の小澤征爾関連映像の中で、最古の本人映像は、「世界の OZAWA」ではない。「**危機に立つ小澤青年**」を記録したものだった。(この映像は NHK を含め、他のテレビ局にないようだ。NHK のアーカイブリストにはなく、YouTube で海賊版としても公開されたものは見当たらない)

こぶしを振り上げてひとり。1962 年 12 月 20 日、上野の東京文化会館。一年前に竣工したばかり。音楽の真新しい殿堂だ。その舞台に小澤征爾 (27) はひとりで立っていた。ステージにはオーケストラの楽器と無人の椅子が並んでいる。むなしくこぶしを振る上げる。世に言う「**N 響事件**」である。小澤征爾は NHK 交響楽団の楽団員たちに演奏会をボイコットされたのである。この 3 年前、小澤征爾はスクーターでの「**音楽武者修行**」の末に、フランスでの指揮者コンクールに優勝。その後、アメリカ、ドイツと国際コンクールを次々に制覇。事件の一年前には二年ぶりに帰国し、故郷に錦を飾った。ニューヨーク・フィルのタクトを振り、聴衆を魅了した。あまりにも華々しいヒーローの誕生だった。さらに NHK 交響楽団の指揮者として迎えられた。だが、小澤は古参楽団員と正面から衝突した。「生意気だ」「敬語を知らない」などと演奏以外での非難がなされた。

映像は開かれるはずだった演奏会のステージに立つ小澤征爾を記録している。干された。ひとり立ち、ひとり椅子に座りこんだ。涙を見せることはなかったが、憔悴した小澤の表情は快活きわまりない青年指揮者を襲った精神の危機をあらわしていた。

後に小澤征爾は「精神的にめちゃくちゃにやられた。泣いたし、悔しかった」と書いている。
(2014 年 1 月、日経新聞「私の履歴書」)

この事件はベートーヴェンでいえば『ハイリゲンシュタットの遺書』であろう。聴覚を失い自殺を考えたベートーヴェン。しかし、彼は強い情熱をもってこの苦悩を乗り越え、ふたたび生きる意欲を得た。小澤は再び日本を旅立ち、真の「世界のオザワ」伝説を創っていく。

♪第三楽章 劇録！唸り、歌う小澤征爾。～なぜ、唸るのか、歌うのか～



1965年、12月22日から24日まで、小澤征爾は日本武道館！でベートーヴェン交響曲第九番「合唱付き」を指揮した。1万人×3日間のチケットを売り切るクラシックコンサートは例がないだろう。N響事件から3年、小澤征爾はナポレオンのように世界での地位を確立し、旭日将軍のように凱旋したのだ。TBSはこの第九演奏会を撮った。それどころではない。社員ディレクター

萩元晴彦（後にテレビマンユニオン創設）はある企みを実行した。第九のリハーサルの際に小澤の胸ポケットに集音マイクを設置し、指揮者小澤征爾の肉声での指示、息遣いを録った。マイクは小澤征爾のはげしい唸り声を記録した。唸りだけではない。カンタービレの曲想指示がある第九の第三楽章（アダージョモルトカンタービレ＝非常にゆっくりと歌うように）では小澤が法悦の表情で大きな声で歌うさまをクローズアップの映像でドキュメントした。これは **TBS が世界に誇る映像**である。音楽の偉人として歴史に残る人物の特別な映像として、後世に残された。映像は30分。たっぷりある。巨匠の音楽の秘密を垣間見せ、神髄の一端に迫っている。小澤征爾の映像はYouTubeには溢れかえるが、この映像記録は他には一切無い、ワンアンドオンリーの特別で珍しいものである。

ベートーヴェンは「遺書」の後、生まれ変わる。1804年に交響曲第3番「英雄」によって、音楽の歴史を変えた。それを皮切りに、その後10年間にわたって名作を連発し、「傑作の森（ロマン・ロランによる表現）」と呼ばれる大充実期を迎えた。

小澤はN響事件からの10年を目覚ましい大躍進の時代とする。事件の翌1963年、シカゴの音楽祭に参加した。そこにチャンスの前髪があった。主任指揮者が病気となると小澤征爾は代役で指揮台に立った。その練習でオーケストラの圧倒的支持を得た。鮮やかな棒さばきのテクニック。音楽の構成に対する確かな感覚。楽曲と作曲意図に関しての深い理解と自信に満ちた解釈。そして、本番ではアメリカの観客から大喝采を浴びた。小澤の**音楽監督の正式就任**が決まった瞬間であった。小澤の初めての本格的なトップの座である。それからトロント交響楽団の常任指揮者兼音楽監督、ロンドン交響楽団の指揮、バーンスタインにかかわってのニューヨーク・フィル長期常任指揮など欧米の音楽界で目覚ましい活躍を為した。

(1)演奏会では聞こえない小澤征爾の指示、注意、唸り。全面音アップ

小澤征爾「第九」を揮る うなり、歌う小澤征爾

(N.A)

世界を魅了した小澤征爾の指揮。その秘密はなんだろう。天才ディレクター、萩元晴彦は小澤の音楽の神髄に肉迫したかった。

1965 年、12 月 22 日から 24 日まで、小澤征爾は日本武道館！でベートーヴェン交響曲第九番「合唱付き」を指揮した。武道館で三日間を売り切るクラシックコンサートは例がないだろう。

「N 響事件」から 3 年、小澤征爾は旭日将軍のように世界での地位を確立し凱旋したのだ。TBS はこの第九演奏会を撮った。萩元晴彦はある企みを実行した。リハーサルの際に小澤の胸ポケットに集音マイクを設置し、指揮者小澤征爾の肉声での指示、息遣いを録った。マイクは小澤征爾のはげしい唸り声を記録した。唸りだけではない。「カンタービレ」の曲想指示がある第九の第三楽章（アダージョモルトカンタービレ＝非常にゆっくりと歌うように）では小澤が法悦の表情で大きな声で歌うさまをクローズアップの映像でドキュメントした。これは TBS が誇る世界の宝である。萩元は歴史の遺産としてこれを残すことまでイメージしていたのではないか。

(C.I)

（アナウンサー）ベートーヴェンの「第九」で何を表現したいと思ってらっしゃいますか

（小澤征爾）あのね音楽で、音楽の表現したいことを口で言うことは非常に難しいんですけどベートーヴェンの音楽の、終わりのころの音楽は非常に「意志の力」が強いですね。音楽そのものの美しさっていうものと「意志の力」があるってことは、あのベートーヴェンでは第九だけじゃないですけどベートーヴェンの中にずいぶんあると思います。それはモーツァルトの、音楽だけの美しさでモーツァルトってのは素晴らしいんですけどそれと非常に対照的だと思います。…

（NA か文字で説明。

交響曲第九番 第一楽章冒頭 16 小節、導入部。弦楽器の弱いトレモロによる天地創造の混沌と神秘から、力強くダイナミックな主題の提示へ。小澤征爾、主題を力強く唸り表現する）

ん～うんゝ ～んゝ ～～うーんうんうんば "

（小澤征爾 うなる）うんうん

(小澤征爾 強くうなる)) んゝ ～うんゝ ～んゝ ～うんうんば

(四分音符を少し長めにください。・・そう。)

(小澤征爾 強くうなる)) んゝ ～うんゝ ～んゝ ～うんうんうんうーん。

(小澤征爾 強くうなる) うんうんうんうーん

(小澤征爾 歌うようにうなる)) んゝ ～うんゝ ～んゝ ～うんううんうんうんうん。
ううううーん、ううううーん！ んゝ ～うんゝ ～んゝ ～) んゝ ～うんゝ ～んゝ
ゝ ～) んゝ ～うんゝ ～んゝ ～ んゝ ～うんゝ ～んゝ ～

(小澤征爾 歌っている)

(小澤征爾、声と唸り。終わりの八分音符長く！

そうそうそうそう。たあたあたあたあ、んゝ ～うんゝ ～んゝ ～

(たあたあたあたあ、んゝ ～うんゝ ～んゝ ～んゝ ～うんゝ ～んゝ ～)

～んゝ ～んゝ ～うんゝ ～んゝ

丁寧に！！セカンド、クレッシェンド (SP だんだん強く)

とってもいいです、ティンパニー～んゝ ～んゝ ～うんゝ ～んゝ ていあら

～んゝ ～んゝ ～うんゝ ～んゝ …～んゝ ～んゝ ～うんゝ ～んゝ～んゝ ～んゝ ～うん

～んたあ、～んゝ ～んゝ ～うんゝ ～んゝ テヌート！ (SP その音の長さを十分にた
もって)

～んゝ ～んゝ ～うんゝ ～んゝ らんぱっぱらん、～んゝ ～んゝ ～うんゝ ～んゝ

その8分音符ながいです ～んゝ ～んゝ ～うんゝ ～んゝ ～んゝ ～んゝ ～うんゝ ～
んゝ～んゝ ～んゝ ～うんゝ ～んゝ

あのね、楽譜にこういう風にはっきりでてると思うんですけど (力強く) ヤンタ
タン！タンタラ、ウンタラ、タンタン！始めと終わりがこれでしょ。

あとはスポーツアードね。スポーツアードのほうがちよっとリズムっぽくて、ヤ
ンタタン！初めと終わりの音をはっきりと。ヤンタタン！

もう一回。おし。～んゝ ～んゝ ～うんゝ ～んゝ ストリング(SP 弦楽器) の、ファ
ーストヴァイオリンの方、今の今止めたところの八つ前がね、オーの八つ前を
こういうふうにやっていただけますか。ヤータンタラン！

(手を叩きながら) ヤータンタラン、タンタラン

2 拍目がダウンビートだと思ってください。一拍目がこう。(手を叩きながら) タ
ンタラータンタラーってこっちに重きをおいて長い方の音に重きがある。タン
タラー！短くて結構です。最初のあの八分音符はそこちよっとヴィオラとセコ
ンドヴァイオリンとファーストヴァイオリンだけ、O の八つ前。

頭の音から。(小澤、気合いを入れて) ヤン、タンタラー！～んゝ ～んゝ ～う
んゝ ～ん

もしかしたらね、タンタラーっていう二拍目の音が薄すぎるのかも知れませんが。
～うんゝ タンタラーてこういう風にタンタラーって、頭が重いやつみたいに

。もう1回～んゝ～んゝ～うんゝ～んゝ、うん結構です、結構です。ちょっとそれで32分音符をもうちょっとタンタラー、変えたいんだ、ベートーヴェンおそらく僕はそここのところこうだろうと思うんですけどね。変えててもいいだろうと思うんですけど、今のやつ。ドドレ、レラーにしてくださいます。…

(ヴァイオリン弾く) いや、タララ、ラン、タラーです。

is that all right? そこんところね割とムズムズしてるとこなんですよ。

あの音が。だから、あの、そのシラソファミレに入る前によく気をつけてください。"そしたら絶対あうと思う。Mの後、Mの五つ目から、ちょっとやってくださいますか。"Mの五つ目。ピアノ、ピアノニッシモ

この今の今、Cというところ。ヤーリアラン♪

♪ヤーリランタッタタタ、ヤーリランタッタタタ

音をもっと身軽にして。皆さんこの白いハーツを。♪ヤーリランタッタタタ

(弦楽演奏)(小澤止めて謝る)僕が悪かったです。僕があおりすぎて少し早くなっちゃう。昼飯たくさん食べすぎちゃった。(「ひひ、へっ」と小澤のうすら笑い)プレスト。♪タカタカタカタカタカタン

(SP 小澤、一生懸命、演奏を聴いている。耳がとても大きい)

よし。～んゝ～んゝ～うんゝ～んゝ

演奏

演奏

(演奏にかぶせて小澤歌う)♪ラリーラリーラリーラリーリーダー やさしく!

～んゝ～んゝ～うんゝ～んゝ～んゝ～うんゝ～んゝ

はい、どうもありがとうございました。僕はこの楽章よりもまずきょうは三楽章をちょっとでもゆっくりとやりたいです。…

演奏

はいここでヴィブラート

…もうちょっとヴィオラはつきりわかれますか。

演奏 指揮する小澤の恍惚の表情。法悦にひたる

小澤歌う。

小澤の声 スースースー 小澤、指揮をしながら左手を耳にあて、一生懸命聞いている

小澤気持ちよさそうに歌う♪ソーーン、ヤールー

小澤歌う♪うーうーうううーん

小澤歌う♪あああああーうーうー

演奏 (SP 第三楽章 アダージョモルトカンタービレ非常にゆっくりと歌うように) 音楽に没入する小澤の恍惚

8部音符のやつ気を付けて!

(小澤歌う) ♪ウィヒラーヒーヒー ここはビブラート！

演奏 (SP 天上の音楽の神秘と幸福と美しさと。清純な第一主題が第一ヴァイオリンに主宰され、弦の合奏として)

小澤歌う ♪ムームームームームー

演奏

演奏 小澤、息と声 スースー

(F.O.)

(C.I)

(演奏会場の声、オフ) はじまります

...

(小澤征爾の指示) エンド、ヌー。はっきり出ますか？

ちょっと誰か、みんな誰かじゃない。一緒に行ってください。

その2拍目のやつ。1と2。そこのウンから読んでくださいますか。

言葉で。音程なしでリズムだけで。1と2。

母音がはっきりしないみたい

(声楽指導者) ベヤスの発音が長く引っ張りすぎるとNが聞いてこないの。

オー、ウンベヤスニー、Mをここでは早く言うようにして

(小澤征爾) もう1回。1と2

N--ってやつがないと、あのNははっきり出ねえでしょ。...

...じゃあ、もう1回行きましょう。(声を張り上げて) ♪イヤアーから

イングリッシュE。1。(合唱) はい、止めて。何回も止めて。

そのテノールもやっぱり八分音符で。(小澤リズムカルに歌う) ♪ヤーララウン
タタウンタタ。母音がいつもきちっときこえるように

"1,小澤合図。(歓喜の歌、合唱はじまる)"

(ピアノ伴奏にあわせて合唱)

(合唱)

(合唱)

(合唱)

(合唱 小澤も歌っている)

(演奏)

(演奏 終結部 小澤歌っている)

(合唱)

(小澤ひときわ大きな声で歌いうなる)

(小澤うなり続ける)

(第九 四楽章の終わり。小澤最後の気合い)

(ひとつの文章が提示される)

・・・「音楽」という名詞を生き生きとした動詞に変えるのが

「指揮」という仕事ではないか 武満徹・・・

(SP or NA) (写真 CD ジャケット 小沢と武満の2ショット

「ノヴェンバー・ステップス」)

日本を代表する作曲家の武満徹。小沢征爾の音楽界の盟友であった。

萩元と同年。小沢より5歳年長であるが、終生の親交があった。

代表作「ノヴェンバー・ステップス」は

小沢征爾のタクトによって、初めていきいきとした音楽となった。

音楽史に残る名曲として知られている。

武満徹 1996年没 66歳

萩元晴彦 2001年没 71歳

(F.O 白)

(2)小澤征爾の指揮、その源泉～鬼の斎藤秀雄の痕跡～映像 57秒ワンカット



小澤征爾には三人の先生がいる。小澤は世界に出てから続けざまにヘルベルト・フォン・カラヤン、レナード・バーンスタイン、シャルル・ミンシュという20世紀を代表するスター指揮者たちから直接指導を受けることができた稀有な存在である。しかし、その前に指揮法の基礎を身に付けたのは**斎藤秀雄**のもとでの7年間の修行だった。

小澤征爾の第九が放送された同じ1966年、TBSは小澤の師匠、斎藤秀雄の姿を記録している。1992年から毎年、夏の終わりに長野県松本市で**サイトウキネンフェスティバル**という音楽祭が開催されている。小澤征爾が恩師斎藤秀雄を偲び、門下生を中心に集まるものだ。小澤征爾は16歳で**斎藤秀雄**の弟子となり、貨物船で日本を飛び出した23歳まで「丁稚奉公」のように仕えた。斎藤は「**練習の鬼**」として知られている。精緻なメソッドで徹底指導する。鉄拳も飛び出す。小澤はこの斎藤門下で何度も悔し涙を流し、実弟、**小澤幹雄**氏の証

言では「ある日、練習からかえってくるなり、本棚のガラスを拳で殴り、傷だらけとなり、血を流した。その手に僕が赤チンを塗った」という。(やわらかな兄 征爾/小澤幹雄 光文社 1985 年) 小澤は苦しい鍛錬の日々をその後、回想し、斎藤先生の指導があったから、今の自分があるということを常に語っている。

斎藤秀雄は戦前、ドイツで二度も学んだ高名なチェリストであり、草創期の楽壇で活躍した指揮者であった。その斎藤は教育者としての第二の人生を早くに選び取り、番組が制作された 64 歳 (1966 年 11 月) までに数多くの高名な演奏家、指揮者を育て上げた。

小澤幹雄氏のもうひとつの証言がある。

若いころの小澤征爾の瘦身の姿、指揮ぶりは師匠に瓜二つであったという。

徹底的な指導の痕跡は実はつぶさに見て取れる。

小澤征爾が斎藤秀雄のうなりながらの指揮ぶりと「第九を揮る」のドキュメントに見る小澤征爾のうなりは酷似している。57 秒間、ワンカットで絵音アップを想定。

ウンパーティンパー ってこうやるんですよ 斎藤秀雄が手本をしめし、生徒に近づく

(3)歌う小澤征爾！全面音アップ 2分30秒 ワンカット

演奏 ベートーヴェン交響曲第九番

第三楽章＝アダージョ・モルト・エ・カンタービレ (非常にゆっくりとそして歌うように) 比類のない美しさで天上の音楽を思わせる。曲想指示は「歌うように」だ。

そのことを伝えたい小澤征爾はみずから幸福感に満ちた表情で歌うのだ！

(小澤 大きな声で)

はいここでヴィブラート！

…もうちょっとヴィオラはつきりわかれますか。

演奏 指揮する小澤の恍惚の表情。法悦にひたる

小澤歌う。

小澤の声 スースースー 小澤、指揮をしながら左手を耳にあて、一生懸命聞いている

小澤気持ちよさそうに歌う♪ンーーン、ヤールー

小澤歌う♪うーーううーん

小澤歌う♪ああああーうーうー

演奏 (第三楽章 アダージョモルトカンタービレ非常にゆっくりと歌うように) 音楽に没入する小澤の恍惚

…8 部音符のやつ気を付けて！ (小澤歌う) ♪ウィヒラーヒーヒー ここはビブラート！

演奏 (天上の音楽の神秘と幸福と美しさと。清純な第一主題が第一ヴァイオリンに主宰され、弦の合奏として) 小澤歌う♪ムームームームー

演奏

演奏 小澤、息と声 スースー

演奏

はいここでヴィブラート

…もうちょっとヴィオラははっきりわかれますか。

演奏 指揮する小澤の恍惚の表情。法悦にひたる

小澤歌う。

こんなインタビューがある

(アナウンサー)指揮者にとって必要な要素は何だとお考えですか。(小澤征爾)あのね、この指揮者ってのは割と交通巡査みたいなきがあるんですよ。なんかすっかり人に見せなきゃいけないという。曖昧なことはあんまりよくないです。

(4)小澤征爾、「歓喜の歌」を歌い指揮する！全面音アップ5分15秒 2カット

小澤征爾は生涯、何度も第九を演奏した。1998年2月、長野五輪の開会式で五大大陸を生中継でつなぎ世界同時に第九を演奏するという壮挙を実現する。1965年年末、日本武道館での第九はどのように仕上がったのか。第四楽章の終結部、《抱き合え、百万の人々よ》と歌が高まり、《歓喜よ、神々の麗しい閃きよ》とおごそかに、興奮のうちに終曲する。ドキュメントは練習風景から、日本武道館での本番映像にトランジションする。

(小澤征爾の指示) エンド、ヌー。はっきり出ますか？

ちょっと誰か、みんな誰かじゃない。一緒に行ってください。

その2拍目のやつ。1と2。そこのウンから読んでくださいますか。言葉で。音程なしでリズムだけで。1と2。

母音をはっきりしないみたい

(声楽指導者) ベヤスの発音が長く引っ張りすぎるとNが聞いてこないの。

オー、ウンベヤスニー、Mをここでは早く言うようにして

…

(小澤征爾) もう1回。1と2

N--ってやつがないと、あのNをはっきり出ねえでしょ。…

…じゃあ、もう1回行きましょう。(声を張り上げて) ♪イヤアーから

イングリッシュE。1。(合唱) はい、止めて。何回も止めて。

そのテノールもやっぱり八分音符で。(小澤リズムカルに歌う) ♪ヤーララウンタタウンタタ。

母音がいつもきちっときこえるように

1,小澤合図。(歓喜の歌、合唱はじまる)

(ピアノ伴奏にあわせて合唱)

(合唱)

(合唱 小澤も歌っている)

(演奏)

(演奏 終結部 小澤歌っている)

(小澤歌っている)

(合唱 本番映像にトランジション)

(小澤ひととき大きな声で歌いうなる)

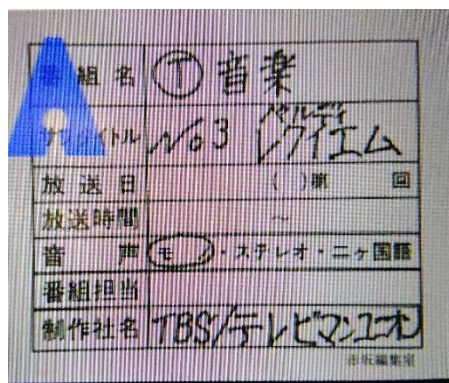
(小澤うなり続ける)

(第九 四楽章の終わり。小澤最後の気合い)

小澤、タクトをおろす。拍手と大喝采の中の小澤

♪第四楽章 炎となり爆発する小澤征爾～知られざる完全演奏記録～

実はTBSには、これまで世間も本人もその存在に気が付かず、小澤征爾本人も演奏後一度も見たことがないであろう大編成の演奏記録がある。53歳と円熟期にある小澤征爾が渾身の指揮をした全曲完全記録だ。特別な使用目的があったため、一度の放送後、一度も、一部分も再使用されていない。



楽曲はイタリアのオペラ王 **Verdi** の超大作「レクイエム」である。ヨーロッパの「偉大で劇的な絵画」といわれている。1989年1月7(土)、深夜 26:30 から一時間半の放送されたものだった。この日は昭和天皇崩御の日である。その日が避け得ぬこととなり、追悼のミサ曲が事前に収録されていた。

朝からのご崩御の、国をあげての沈痛の一日が過ぎた真夜中の放送とあって、視聴率は1.1%だった。見た人はほとんどいないし、この映像のことをその後、語った人がいない。

小澤征爾については世界的にあらゆる研究がなされ、記録が編まれ、残されているのだが、この極めて稀有で貴重な演奏記録のことは一片の情報も見当たらない。

全編1時間21分の記録だが、9月を想定する45分間のドキュメンタリー番組では「レクイエム」の中から、「最後の審判」の業火を描いた「怒りの日」を紹介したい。炎となり、咆哮する小澤征爾の壮絶な姿がある。2分14秒。

全編の公開は別の機会と方法を待ちたい。

